

中心商店街の入口に親子交流施設を設置
もう一方の入口には高齢者等交流施設を設置し、中心商店街の回遊性を高める

NPO法人山口せわやきネットワーク（山口市本町商店街振興組合）

機関名	NPO法人山口せわやきネットワーク（山口市本町商店街振興組合）		
所在地	山口市本町2-1-3（山口市本町2-1-2）		
電話番号	083-921-0428（083-925-0934）		
地域概要	(1)管内人口 143千人	(2)管内商店街数 9商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 22商店	
	(3)空店舗率 30.0%	(4)大型店空き店舗数 1	
	山口市本町商店街振興組合		
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度	コミュニティ施設活用事業（親子交流施設）
	・子育て中の親子が気軽に立ち寄れるコミュニティ施設の設置・運営
総事業費	3,201千円

【事業実施内容】

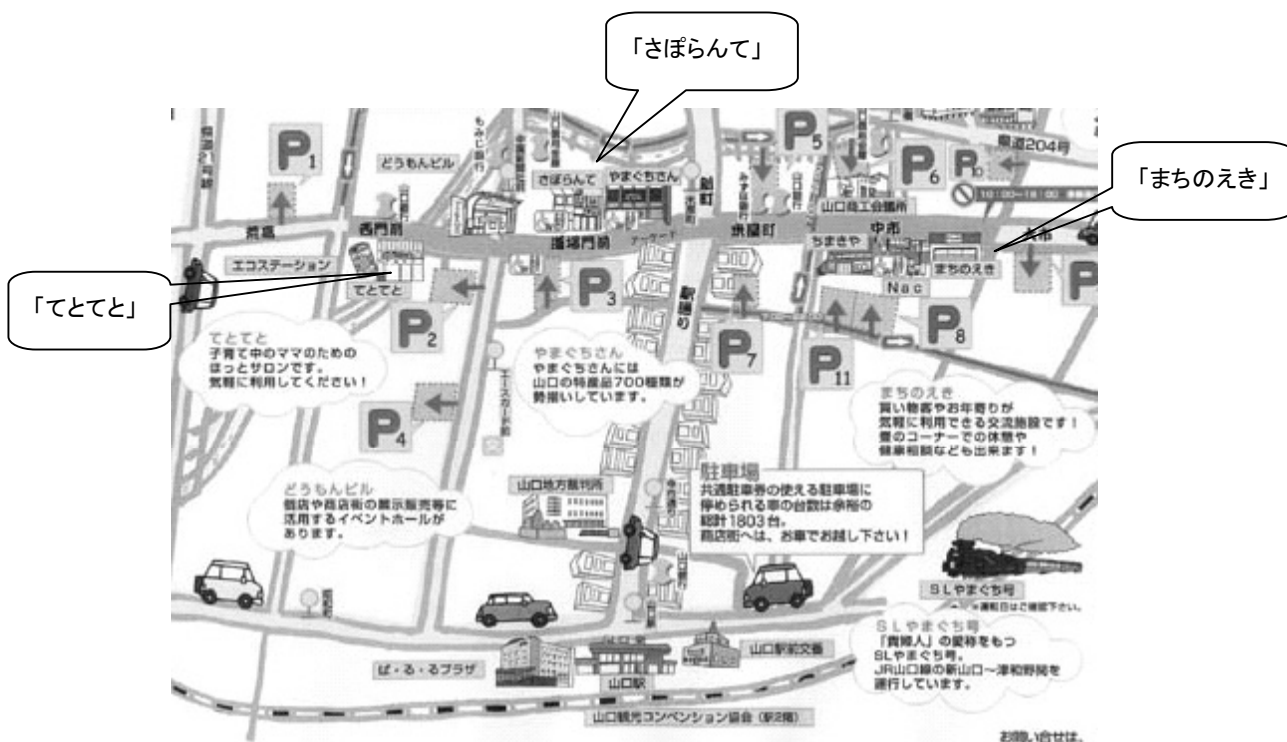
1. 背景

本町商店街振興組合（商店街の通称は「西門前商店街」、以下「西門前商店街」という。）は、JR山口駅の北方約500mの米屋町商店街の西側に隣接し、街路の延長は約100メートルで、全蓋アーケードならびにカラー舗装を設置し、山口県の県都・山口の中心商店街を構成してきた（中市、大市、米屋町、道場門前、西門前、新町、駅通りの7つ）。

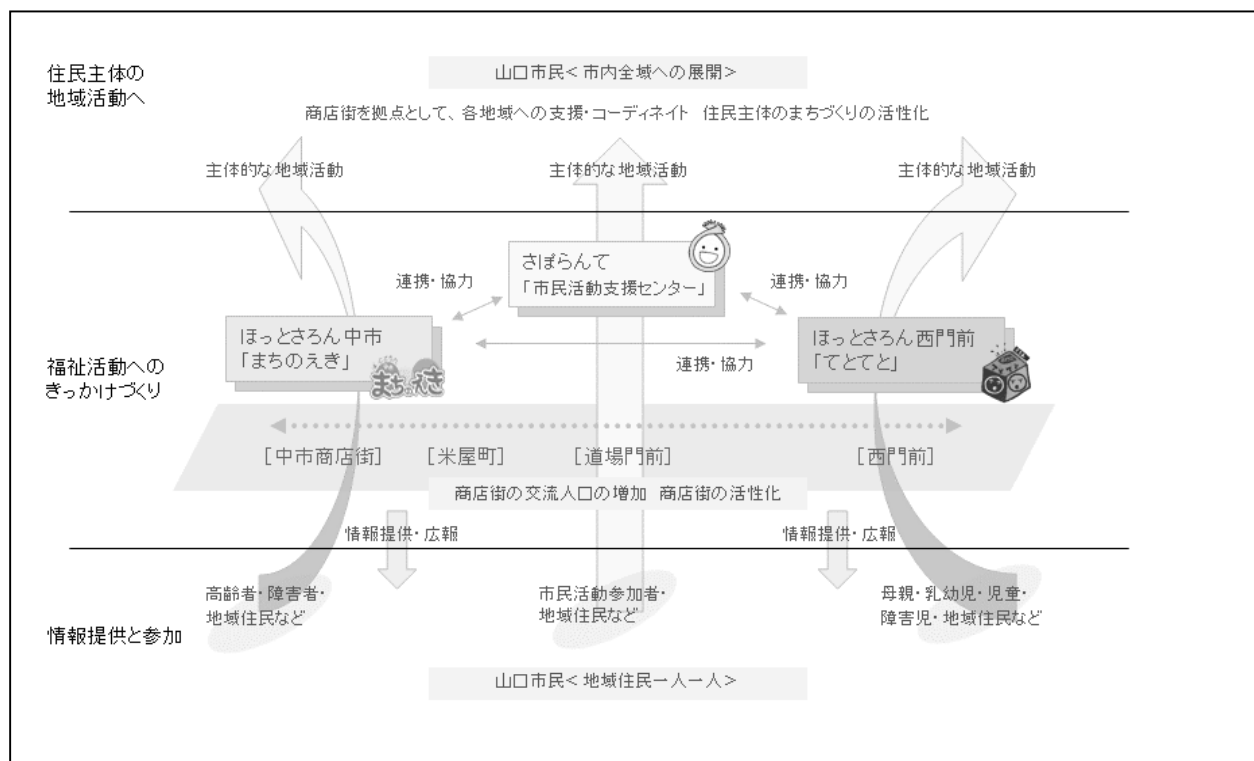
平成15年7月から、「福祉のまちづくりから福祉でまちづくり」をテーマにした山口モデルの提案に基づき、商店街を拠点とした地域への支援・コーディネート及び住民主体の街づくりを図ることを目的に、西の入り口付近の西門前商店街に、母親、乳幼児、児童、障がい児、地域住民のためのほっとさろん「てとてと」を設置した。また、同時に、別事業として、中市商店街のアーケードの東の入り口付近に、高齢者、障がい者、地域住民などが休憩・交流できる「まちのえき」を設置した。全体の来街者数の増加と回遊性を高めることを狙いとし、中心商店街の東西の入り口付近にコミュニティ施設を設置し、さらに、中ほどに位置する市民活動支援センター「さばらんて」と連携を図った。各施設の位置関係並びに山口モデル提案図は次のとおりである。

市民に対して認知が広がっており商店街の賑わいの定着を図る必要性から、16年度も取り組むこととした。

NPO法人山口せわやきネットワーク（本町商店街振興組合）



「まちのえき」の位置（山口商工会議所 HP より加筆）



「福祉のまちづくりから福祉でまちづくりへ」山口モデル提案図（「てととと」HPより）

2. 事業内容

主に乳幼児（0～3歳）を持つ親とその子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い交流を図ることや、ボランティアを活用して育児相談などを行う場を身近な地域に設置することにより、子育て中の親の子育てへの負担感の緩和を図り、安心して子育て・子育てができる環境を整備し、もって地域の子育て支援機能の充実を図ることを目的とした。



「てとてと」正面

- ・設置場所：西門前商店街内（山口市本町2-1-3）
- ・開設時間：10:00～15:00
- ・休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、お盆
- ・事業主体：NPO法人「山口せわやきネットワーク」
本町商店街振興組合
- ・実施体制：ほっとさろん西門前「てとてと」に専門職員を配置して事業を実施。また、運営委員会は、利用者、NPO、商店街、TMOである㈱まちづくり山口、専門家、行政等の14名で構成。各委員の意識の共有を図り、事業に反映した。

（1）施設運営管理

①開設時間 10:00～15:00(定休日：土・日・祝、年末年始、盆)

②入館者数

月	入館者数	月	入館者数
4月	707人	10月	549人
5月	828人	11月	795人
6月	1,041人	12月	639人
7月	961人	1月	579人
8月	549人	2月	598人
9月	646人	3月	687人
		計	8,624人

(1日平均約40名程度の利用)

*H15はH15/7月～H16/3月で、7,817人の入館者数

③一周年イベントの開催

1)開催日時 平成16年7月18日(日) 10:00～15:00

2)参加者数 約300名

3)内 容

- ・オープニングセレモニー
- ・歌とダンスのみんなのステージ
- ・ワークショップ（虫除けスプレー、入浴剤）
- ・遊びのコーナー（ヨーヨーつり、お菓子つり、ダンボールトンネル）

NPO法人山口せわやきネットワーク（本町商店街振興組合）

- ・フリーマーケット（てとママ隊）

④運営委員会の開催

コミュニティ施設活用事業に対して、計画的かつ効果的な実施や事業の評価の意見を聞くために運営委員会を設置（年2回）

⑤実験的事業への協力

昨年度の運営委員会の中で出された意見を基に組み立てられた実験的事業に、「てとてと」の職員が実行委員として、利用者が取材スタッフとして協力した。

※ 実験的事業・・・「商店街広報誌づくり事業」

（主催：街づくり山口、山口商店街連合会、NPO 法人ゆにーく）

（2）つどいの広場事業

地域の子育て家庭の親とその子どもが気軽にかつ自由に利用したいときに利用できる場を提供。（おもちゃ 56 種類、絵本 215 冊、紙芝居 10 冊を整備）

- ・利用者向けミニプログラム(自由参加、毎回 10 名前後が参加)を開催。（計 99 回）
月(午前):ちいさなちいさなおはなし会(幼児向けの絵本の読み聞かせの会(33 回)
月(午後):手作りおもちゃの会(てとてと用のおもちゃを作る会) (19 回)
火(午後):はたけの会(裏の畑で農作業をする会) (33 回)
水(昼頃):水遊びの会(プール、夏季のみ) (6 回)
隔週 木:おさんぽの会(てと号で近隣の公園・施設へピクニック) (10 回)
第 3 木:うちの子サイズ(有資格者によるお手伝いつき身体測定会) (12 回 78 名が参加)

（3）子育てママ交流事業

子育て中のママが心的疲労を解消するためのママ同士の交流サロンを開催(12 回)
(月 1 回・参加費 500 円・講座は外部に会場を借りて、託児は本施設内で行った)

	開催日	内容	講師	参加者数(託児)
1	4/16	すいっちおふ会	スタッフ	7名 (9名)
2	5/21	すいっちおふ会	スタッフ	10名 (11名)
3	6/18	グループカウンセリング	県立大講師	10名 (11名)
4	7/9	妊娠出産の素敵なお話	助産師	10名 (6名)
5	8/13	みっちゃんと元気になる歌広場	スタッフ	18名 (8名)
6	9/17	グループカウンセリング	県立大講師	11名 (15名)
7	10/15	「ち・お」を読む会	スタッフ	8名 (7名)
8	11/12	妊娠出産の素敵なお話	助産師	8名 (6名)
9	12/10	すいっちおふ会	スタッフ	10名 (13名)
10	1/21	すいっちおふ会	スタッフ	8名 (11名)
11	2/18	すいっちおふ会	スタッフ	8名 (9名)
12	3/16	グループカウンセリング	県立大講師	7名 (11名)
計				115名 (127名)

*H15 は計 9 回実施し、79 名（託児 87 名）の参加者数であった。

- ・自主保育を行うグループを作り、運営をサポートした。（4 グループ 21 家族が活動）
- ・リラクゼーション（月 1 回 36 人利用）

- ・おもちゃの貸しだし（登録 13 名 28 回貸し出し）



「てとと」内の様子

(4) 子育て関連情報収集・提供事業

子育てに関する情報(子育てへの意識啓発や悩み解決につながるもの、子育てに関するイベントや講座の情報、子育て支援に関するもの、市内の子育てグループ情報等)を収集し、提供した。

- ・広報誌の発行(月 1 回、1,200 部)
- ・HP の管理運営 (<http://www.teto2.jp>)
- ・掲示板の活用(譲り合い掲示板、ポスター等の掲示)
- ・チラシの収集、提供
- ・閲覧用パソコンの設置
- ・子育て関連図書の貸し出し(寄付による蔵書 200 冊 139 件)

(5) 子育て相談事業

育てに関する不安や疑問をもつ子育て中のお母さんに対する相談・支援を行った。
(111 件 86 名参加)

- ・(再掲)身長体重測定会「うちの子サイズ」(12 回 86 名が参加)
- ・相談対応のための資料作成

(6) 子育て支援者養成講座事業

子育てに関心がある者や広場の利用者など、将来子育て支援に関わるスタッフとして活動することを希望する者を対象として、子育て及び子育て支援に関する講習を行った。(12 回 153 名参加)

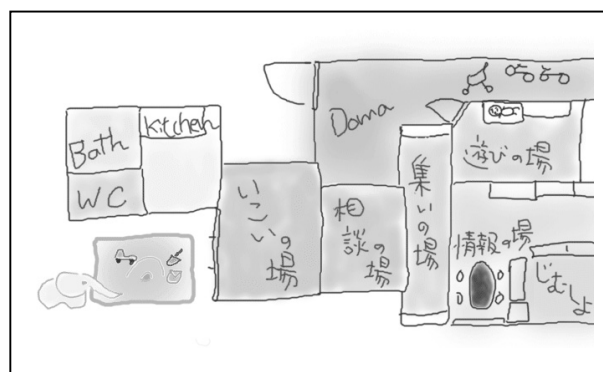
(7) 一時預かり事業

商店街での買い物を楽しんでもらうなど、子育てママが精神的なゆとりを得てリフレッシュを図るため、2 時間程度のレスパイトサービスを行う。

(計 87 件 98 人が利用)

(8) メールマガジン事業

- ・作業部会 (6 人) (計 12 回開催)
- ・配信回数 (週 1 回 計 48 回)



てとと内スペース (てととHPより)

NPO法人山口せわやきネットワーク（本町商店街振興組合）

（9）ガーデンサロン事業

- ・ログハウス・築山・プレハブの移動・室外機の囲い
- ・ログハウス内キッチン購入
- ・ベンチ設置

（10）子育てニーズ調査研究事業

- ・作業部会（8人）（計21回開催）
- ・アンケート調査の実施（対象者計220名 ヒヤリングスタッフ計46名）
- ・子育て支援をつなぐ仕組みWS（2グループ×2回）
- ・試験的事業（サロンの開催）（2地区×3）

（11）その他

＜商店街との連携内容＞

①各会合や作業への出席

本町商店街振興組合総会（5/18）、婦人の会（7/8）懇親会（11/10）エコステーション当番（毎週水曜日）、古紙回収日作業協力（月2回）

②イベント時の特別開所・イベントへの参加

祇園まつり（7/27夜間）、ちょうちんまつり（8/6、7夜間）、

③広報面での相互協力

- ・本施設が発行する広報誌で本町商店街店舗を順次紹介（計7店舗）
- ・本施設内に月恵比寿や各店舗の売り出しのチラシを掲示

【 効 果 】

1. 近隣商店街への波及

商店街の新しい風として子育て中の親子、学生、高齢者等の目線からあらためて商店街の存在を見直すきっかけとなっている。

2. 来街者の行動

託児サービス（預け合いや一時預かり）の利用者から、「子供を預けてゆっくり買物を楽しんだ」などの意見が多く寄せられている。ゆったり買物を楽しむことのできない環境である子育て中の親達から新しい商店街利用の形を作ることが出来ている。

3. 店主の意識の高揚

商店街との連携については、本施設からの一方的なものではなく、商店街側からの提案や協力もあることから、これからさらに連携を深めていける可能性は高い。各店主にも、商店街が地域やコミュニティに貢献していくためには、小売機能だけでなく、本施設のようなコミュニティ施設の機能も必要であるという意識が育っていると感じる。

17年度事業としては、自主収入事業として、商店街のイベントに合わせ本施設利用者の力を生かせる場を提供していきたいと考えている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業の合意形成

商店街活性化のためには本施設と商店街の連携が必要であるが、商店街関係者に本施設の事業目的や事業内容を理解いただき、本施設と商店街が連携する上で、「できること」・「できないこと」の整理が必要である。そして、商店街関係者が主体的に関わる仕組みづくりが必要となってくる。

2. 事業費の確保

平成 18 年度以降の運営費が課題となってくるが、自主収入を研究していき、様々な委託事業や補助事業を検討していく。

3. 駐車場代

来所者やボランティアは駐車場代を負担している。

4. 次世代支援者の育成

来所者を次の世代の支援者として育成していくことが重要。平成 17 年度は単なるボランティアにとどまらず、準スタッフとしてより多くの事業に来所者の参画を図る。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

コミュニティ施設におけるソフト機能（子育て交流）が、商店街の活性化に貢献できるということを、商店街関係者に先に理解していただくことが重要と思われる。

【 関 連 U R L 】

ほっとさろん西門前「てとてと」 <http://www.teto2.jp/>

山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 <http://2style.jp/saporant/>

ほっとさろん中市「まちのえき」 <http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/>